

## 秋季見学会の見どころ

ゴシック体は「日本史用語集」（山川出版社）収録の用語

### ○吉田地区（窪田鷹男殉職碑・棕神社・井上传蔵墓・井上传蔵屋敷跡・秩父事件資料館）

吉田地区は秩父困民党が結集し蜂起した地域である。阿熊川沿いに窪田鷹男殉職碑があり、碑面には「埼玉県警部補窪田鷹男殉職之地」とある。この碑は事件 60 周年を期して旧吉田町によって立てられたものである。国家に刃を向けた地域の祖先たちは暴徒とされ、その弾圧に携わった者が大々的に顕彰されたことをこの碑から読み取れる。

**棕神社**の境内の一角に秩父事件の記念碑とブロンズ製の記念像がたっている。1884（明治 17）年 11 月 1 日、約 3000 人の農民が集結し蜂起した場所である。

秩父困民党軍会計長の**井上传蔵**は「丸井商店」を営む上層農民であったが、党本部へも出入りしていた**自由党员**でもあった。事件後、偽名を使い北海道に潜伏した。同地で代書・下宿・雑貨商などを営みながら妻子をもうけ、1918（大正 7）年、死の直前になって家族らに事件の一部始終を語った。秩父事件資料館は映画『草の乱』撮影のため井上传蔵邸が復元された。

### ○沢戸の町並み

秩父市吉田石間は、事件当時、ほぼ全村が**秩父事件**に参加した。石間川上流部に位置する急傾斜地集落で、川を挟んで南西に沢戸、北東に半納の 2 集落がある。今回見学するのは沢戸である。石間集落は高低差 100 メートル以上の斜面に展開し、家の土台には数メートルもの石垣が築かれている。

### ○秩父市吉田石間交流学習館・加藤織平の墓

閉校校舎を利用した施設で、多くの**秩父事件**資料等を展示している。根岸君夫の「秩父事件連作画」や羽田信彌「秩父事件連作版画」、**養蚕製糸**関係用具等を見学することが出来る。被害にあった大黒柱も展示されている。近くの石間川沿いには秩父困民党軍副総理の加藤織平の墓がある。事件後逮捕され、1885（明治 18）年に死刑となった。この墓は同志であった落合寅市が建てたものである。この石間川を更に下ると落合寅市の家と墓がある。

### ○小鹿野の町並み

小鹿野町には農民たちの直接の怨嗟の対象となった高利貸しは何軒かあった。11 月 1 日夜、本営を諏訪神社（現在、小鹿神社）におき、この町の高利貸しを襲撃した。常磐屋は明治 13 年に建てられた切妻、瓦葺の土蔵造りの町家。襲撃対象となるが、強引な手法をとって貸していたわけではなかったの、若干の打ちこわしのみですんだ。

### ○音楽寺

小鹿坂峠をこえたところに音楽寺がある。この音楽寺の鐘を合図に坂を駆け下り、荒川を渡り、中心地大宮郷へとなだれ込んでいった。

### ○金仙寺（田代栄助の墓）

秩父困民党総理**田代栄助**の墓。墓石の裏面に「振り返り見れば 昨日の影もなし 行き先くらし 死出の山道」という辞世が刻まれている。